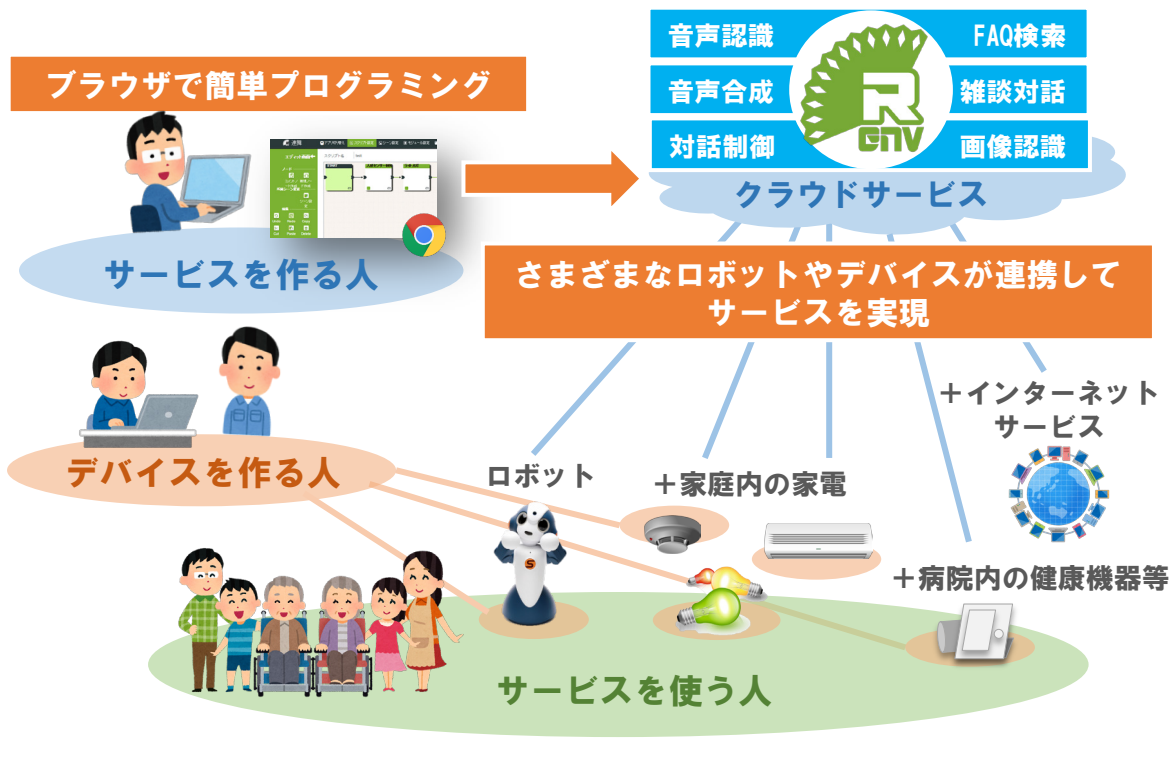


Agent-AIを活用したロボットサービスを簡単に実現します

「R-env:連舞」は、ロボットや外部センサ等各種デバイスの機能を活かしながら、NTT研究所のAI技術「corevo[™]」と連携させたロボットサービスの開発を容易にする技術です。サービス開発者は、Webと親和性の高いプロトコルを用いてデバイスを容易に「R-env:連舞」の実行環境に接続でき、プログラム言語に関する高度な知識がなくとも、様々な用途に合わせたサービス開発をブラウザ上で簡単に行えます。

フォーラム会場の展示ルームにて、実際に「R-env:連舞」に触れられるワークショップと各種サービス事例デモを実施中



特徴

- コミュニケーションロボットを中心に、家電や健康機器などさまざまなデバイスと、各種AI技術を組み合わせたデバイス連携サービスを実現可能
- ブラウザによる開発環境とビジュアルプログラミングでサービスを簡単に短期間で開発可能
- Web技術(WebSocket*1とJSON*2)を利用することで、多様なデバイスやWebサービスと容易に連携可能



利用シーン

- 健康機器とロボット連携による健康チェックなどの介護分野
- カラオケとロボット連携などのエンターテインメント分野
- カメラとロボット連携による顧客対応支援などの窓口業務分野
- サイネージとロボット連携による案内支援などの観光分野

Collaboration Partner

ヴィストン株式会社のコミュニケーションロボットを用いた事業会社との実証実験や、株式会社NHKエンタープライズとインタラクティブサイネージに関する共同実験を実施

*1 WebSocket: クライアントとサーバ間で双方向通信をおこなうためのプロトコルで、主にWebシステムで利用される
*2 JSON (JavaScript Object Notation): 軽量なデータ交換形式の一つで、主にWebシステムで利用される